

## 政策創造研究科

## 【2024年度大学評価総評】

政策創造研究科は、「グローバル化の進展のもとで、都市・地域・組織が抱える課題について、政策という観点から問題解決能力・合意形成能力・システムデザイン能力を培い、価値観の潮流を先取りした社会を創出できる高度専門人材及び研究者の育成を目的とする」と中期目標で謳っている。規模としては小さな研究科でありながら、夜間・土曜開講制を取り、上記の目的を念頭に置いた社会人のリカレント教育に焦点を当てているという点は高く評価できる。

また、横断ゼミの実施、それに連動するようなアクティブラーニング、フィールドワークの実施、学内外に向けたシンポジウムの開催など、かなり実社会に近いところでの学びや研究発信が行われており、社会貢献という意味においても社会に目が向いた大学院プログラムであるということが推察できる。

「授業改善アンケート及び修了生アンケートの組織的な活用」に関しては、受講生の要望に応じて、一部の授業でオンラインの活用やハイブリッド授業を実施している点は大いに評価されるが、今後はさらに組織的な活用が期待される。

本研究科の「学生の受け入れ」に関しては、プログラムの工夫や各教員の積極的な広報により、入試倍率を1.6以上に維持してきたことは高く評価できる。

来年度は、新たに開設する「地域創造インスティテュート」への移行が決まっているため、研究科としてのアドミッションポリシーの掲示は中止しているが、新たな組織の下で、「学生の受け入れ」体制のさらなる改善が期待される。

最後に、新設される「地域創造インスティテュート」は、これまでの政策創造研究科の経験と実績に、経済学研究科、人間社会研究科、キャリアデザイン学研究科の3つの研究科が連携していくということであり、これまでにない新しい形の教育・研究組織へと発展していく可能性を秘めたものと、大いに期待している。

## 大学基準協会の第4期大学基準に基づいた評価項目の充足状況の確認

2024年度自己点検・評価シートに記載された I 現状分析を確認	「いいえ」が選択されている評価項目があるが、課題が見いだされ、適切な改善計画が立てられていることが確認できた。
-------------------------------------	---

## 【2024年度自己点検・評価結果】

## I 現状分析

## 基準1 理念・目的

- 1.1 大学の理念・目的を適切に設定すること。また、それを踏まえ、学部及び研究科の目的を適切に設定し、公表していること。

1.1①研究科（専攻）ごとに、大学が掲げる理念を踏まえ、教育研究活動等の諸活動を方向付ける人材育成その他の教育研究上の目的（教育目標）を明らかにしていますか。	はい
1.1②研究科（専攻）ごとに、人材育成その他の教育研究上の目的（教育目標）を学則又はこれに準ずる規則等に明示し、かつ教職員及び学生に周知し、社会に対して公表していますか。	はい
【根拠資料】	
研究科 HP	

## 基準2 内部質保証

- 2.1 内部質保証のための方針を適切に設定していること。また、教育の充実と学習成果の向上を図るために、内部質保証システムを整備し、適切に機能させていること。

2.1①研究科において、研究科長及び教授会等の権限や責任を明確にした規程を整備し、規程に則った運営が行われていますか。	はい
2.1②研究科において質保証委員会を設置し、自己点検評価結果を活用して改善・向上に取り組んでいますか。	はい

【根拠資料】
質保証委員会開催記録

### 基準3 教育研究組織

部局による自己点検・評価は実施しない

### 基準4 教育・学習

#### (1) 教育課程・教育内容

##### 4.1 達成すべき学習成果を明確にし、教育・学習の基本的なあり方を示していること。

4.1①授与する学位ごとに、ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）において、学生が修得すべき知識、技能、態度等の学習成果を明らかにしていますか。	はい
4.1②授与する学位ごとに、カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成・実施方針）において、学習成果を達成するために必要な教育課程の編成（教育課程の体系、教育内容）・実施（教育課程を構成する授業科目区分、授業形態等）方針を明確にしていますか。	はい
4.1③また、カリキュラム・ポリシーにおいて、学習成果を達成するために必要な教育課程及び教育・学習の方法を明確にしていますか。	はい
4.1④上記の学習成果は授与する学位にふさわしいですか。	はい
【根拠資料】	
研究科 HP、研究科ガイド	

##### 4.2 学習成果の達成につながるよう各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成していること。

4.2①授与する学位と整合し専門分野の学問体系等にも適った授業科目を開講していますか。	はい
4.2②各授業科目の位置づけ（主要授業科目の類別等）と到達目標の明確化をしていますか。	はい
4.2③「法政大学大学院学則」第15条（「単位」）に基づいた単位設定を行っていますか。	はい
4.2④学生の学習時間の考慮とそれを踏まえた授業期間及び単位の設定を行っていますか。	はい
4.2⑤学習の順次性に配慮した授業科目の年次・学期配当及び学びの過程の可視化を行っていますか。	はい
【根拠資料】	
研究科 HP、研究科ガイド	

#### (2) 教育方法・学習方法

##### 4.3 課程修了時に求められる学習成果の達成のために適切な授業形態、方法をとっていること。また、学生が学習を意欲的かつ効果的に進めるための指導や支援を十分に行っていること。

4.3①授業形態、授業方法が学部・研究科の教育研究上の目的や課程修了時に求める学習成果及びカリキュラム・ポリシーに応じたものであり、期待された効果が得られていますか。	はい
4.3②それぞれの授業形態に即して、1授業当たりの学生数が配慮されていますか。	はい
4.3③ICTを利用した遠隔授業は「2023年度授業実施方針について」に沿って、適した授業科目に用いられていますか。また、効果的な授業となるような工夫を講じ、期待された効果が得られていますか。	はい
4.3④単位の実質化（単位制度の趣旨に沿った学習内容、学習時間の確保）を図る措置を行っていますか。	はい
4.3⑤シラバスの作成と活用をしていますか、また学生が授業の内容や目的を理解し、効果的に学習を進めるために十分な内容になっていますか。	はい
4.3⑥授業の履修に関する指導、学習の進捗等の状況や学生の学習の理解度・達	はい

成度の確認、授業外学習に資するフィードバック等の措置を行っていますか。	
4.3⑦研究指導計画（研究指導の内容及び方法、年間スケジュール）を書面で作成し、あらかじめ学生が知ることのできる状態にしていますか。	はい
4.3⑧研究指導計画に基づく研究指導、学位論文指導を行っていますか。	はい
【根拠資料】	
研究科 HP、研究科ガイド、シラバス	

## 4.4 成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っていること。

4.4①成績評価及び単位認定を客観的かつ厳格で、公正、公平に実施していますか。	はい
4.4②成績評価及び単位認定にかかる基準・手続（学生からの不服申立への対応含む）を学生に明示していますか。	はい
4.4③「法政大学大学院学則」第20条の2（入学前既修得単位の認定）に基づき既修得単位などの適切な認定を行っていますか。	はい
4.4④「法政大学大学院学則」第22条（修了要件）、第26条（修了要件）に基づき卒業・修了の要件を明確にし、刊行物、ホームページ等のいずれの方法によっても、予め学生に明示していますか。	はい
4.4⑤学位論文審査基準を定め、文章等によって予め学生に明示し公表していますか。	はい
4.4⑥学位授与における実施手続及び体制が明確になっていますか。	はい
4.4⑦ディプロマ・ポリシーに則して、適切に学位を授与していますか。	はい
【根拠資料】	
研究科 HP、研究科ガイド	

## 4.5 学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価していること。

4.5①授業改善アンケートの結果を組織的に活用していますか。	いいえ
4.5②修了生アンケートの結果を組織的に活用していますか。	いいえ
【具体的な活用事例】	
大学院でのオンライン授業の要望が高いことを踏まえ、一部授業でのオンライン活用やハイブリッド授業の適切な実施。	

## 基準5 学生の受け入れ

## 5.1 学生の受け入れ方針に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や運営体制を適切に整備し、入学者選抜を公平、公正に実施していること。

5.1①修士課程・博士課程ごとに、アドミッション・ポリシー（学生の受け入れ方針）を設定していますか。	はい
5.1②上記のアドミッション・ポリシーは、入学前の学習歴、学力水準、能力等の求める学生像や、入学希望者に求める水準等の判定方法を志願者等に理解しやすく示していますか。	いいえ
5.1③アドミッション・ポリシーに沿い、適切な体制・仕組みを構築して入学者選抜を公平、公正に実施していますか。	いいえ
5.1④入学者選抜にあたり特別な配慮を必要とする志願者に対応する仕組みを整備していますか。	いいえ
5.1⑤すべての志願者に対して分かりやすく情報提供していますか。	いいえ
【根拠資料】	
2025年度の入試を実施しないため、アドミッション・ポリシーはHPから削除している。	

## 5.2 適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理していること。

5.2①【2024年5月1日時点】研究科・専攻における収容定員充足率は、下記の	はい
---	----

表1の数値の範囲内ですか。	
【根拠資料】	
大学HP	

表1

研究科・専攻における収容定員充足率	修士課程	0.50以上2.00未満
	博士課程	0.33以上2.00未満

## 基準6 教員・教員組織

6.1 教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を安定的にかつ十全に展開できる教員組織を編制し、学習成果の達成につながる教育の実現や大学として目指す研究上の成果につなげていること。

6.1①研究科の教員組織の編制は、「人材育成その他の教育研究上の目的（教育目標）」、「求められる教員像及び教員組織の編成方針」に整合していますか。	はい
6.1②教員が担う責任は明確になっていますか。	はい
6.1③法令で必要とされる数は充足していますか。	はい
6.1④科目適合性を含め、学習成果の達成につながる教育や研究等の実施に適った教員構成となっていますか。	はい
6.1⑤各教員の担当授業科目、担当授業時間の適切な把握・管理をしていますか。	はい
6.1⑥教員は職員と役割分担し、それぞれの責任を明確にしながら協働・連携することで、組織的かつ効果的な教育研究活動を実現していますか。	はい
【根拠資料】	
研究科HP、研究科案内	

6.2 教員の募集、採用、昇任等を適切に行っていること。

6.2①教員の募集、採用、昇任等に関わる明確な基準及び手続に沿い、公正性に配慮しながら人事を行っていますか。	はい
6.2②年齢構成に著しい偏りが生じないように人事を行っていますか。また、性別など教員の多様性に配慮していますか。	はい
【根拠資料】	
政策創造研究科教授および准教授等資格内規	

## 基準7 学生支援

7.1 学生支援に関する大学としての方針に基づき、学生支援の体制を整備し、適切に実施していること。

7.1①学生が能力に応じて自律的に学習を進められるようサポートする仕組みを整備していますか（補習教育、補充教育、学習に関わる相談等）。	はい
7.1②障がいのある学生や留学生の実態に応じ、それらの学生に対する修学支援を行っていますか。	はい
7.1③学習の継続に困難を抱える学生（留年者、退学希望者等）に対し、その実態に応じて対応していますか。	はい
7.1④ICTを利用した遠隔授業を行う場合にあっては、自宅等の個々の場所で学習する学生からの相談に対応するなどの学習支援を行っているか。また、学生の通信環境へ配慮した対応（授業動画の再視聴機会の確保等）を必要に応じて行っていますか。	はい
【根拠資料】	
研究科HP、研究科案内、新入生ガイダンス資料、学習支援システム	

## 基準8 教育研究等環境

8.1 研究活動に関わる支援、条件整備を通じ、研究活動の促進を図っていること。また、健全な研究活動のために必要な措置を講じていること。

8.1①「法政大学研究倫理規程」に沿って、学生も含めて研究倫理の遵守を図る取	はい
--	----

り組みを行っていますか。	
【根拠資料】	
研究科ガイド、新入生ガイダンス資料、研究倫理審査規定	

## 基準9 社会連携・社会貢献

9.1 社会連携・社会貢献に関する方針に基づき、社会連携・社会貢献に関する取り組みを実施していること。また、教育研究成果を適切に社会に還元していること。

9.1①「研究及び社会貢献に関する方針」のもと、学外機関、地域社会等との連携、大学が生み出す知識、技術等を社会に還元する取り組みを行っていますか。	はい
9.1②社会連携・社会貢献に関する取り組みにより、地域や社会の課題解決等に貢献し、大学の存在価値を高めることにつながっていますか。	はい
【根拠資料】	
研究科 HP, 研究科案内、研究科シンポジウムの開催資料	

## 基準10 大学運営

部局による自己点検・評価は実施しない

上記の現状分析結果において、【いいえ】と回答した項目があった場合は、その理由と改善計画について記入してください。

大学基準	【いいえ】と回答した点検・評価項目を記述してください
4 教育・学習	4.5①授業改善アンケートの結果を組織的に活用していますか。
【いいえ】と回答した理由と、改善の必要がある場合、改善計画について記述してください。 組織的な活用は行っていないが、個別に対応している。今後FD委員会において検討していく。	
大学基準	【いいえ】と回答した点検・評価項目を記述してください
4 教育・学習	4.5②修了生アンケートの結果を組織的に活用していますか。
【いいえ】と回答した理由と、改善の必要がある場合、改善計画について記述してください。 現状では組織的な活用はしていないが、個別に対応している。今後FD委員会において検討していく。	
大学基準	【いいえ】と回答した点検・評価項目を記述してください
5 学生の受け入れ	5.1②上記のアドミッション・ポリシーは、入学前の学習歴、学力水準、能力等の求める学生像や、入学希望者に求める水準等の判定方法を志願者等に理解しやすく示していますか。 5.1③アドミッション・ポリシーに沿い、適切な体制・仕組みを構築して入学者選抜を公平、公正に実施していますか。 5.1⑤すべての志願者に対して分かりやすく情報提供していますか。
【いいえ】と回答した理由と、改善の必要がある場合、改善計画について記述してください。 2025年度より募集停止につきアドミッション・ポリシーをHPより削除している。	
大学基準	【いいえ】と回答した点検・評価項目を記述してください
5 学生の受け入れ	5.1④入学者選抜にあたり特別な配慮を必要とする志願者に対応する仕組みを整備していますか。
【いいえ】と回答した理由と、改善の必要がある場合、改善計画について記述してください。 仕組みとして整備していないが、個別に対応した実績がある。2025年度より募集停止のため計画なし。	

## II 改善・向上の取り組み

### 1 2023年度 大学評価委員会の評価結果への対応

【2023年度大学評価結果総評】(参考)
「グローバル化と地方分権化のもとで、都市・地域が抱える公共的な課題について、政策という観点から研究・問題解決する能力、合意形成できる仕組みを構想するデザイン能力を培い、新しい価値観を創出してシステムをイノベートすることができる高度専門職業人及び研究者の育成を目的とする」とい

う理念のもと、定員の充足、横断ゼミ、シンポジウム、社会貢献の試みの実施により、年度目標及び達成指標に関しては概ね達成されていることは、専任教員が僅か9名という小さな所帯ながら、不断の努力の賜物と推察している。

学生間のコミュニケーションの課題が見られることは注視していく必要がある。2023年度も同目標が立てられていることから、改善が望まれる。

質保証委員会から「体制変更に向けた過渡期にあるため、その方向性に合致した取り組みにしていくべき」とする提言があったが、「地域の課題に貢献できる教育・研究体制づくりを進めることを念頭に、学生のニーズに応じたプログラムの充実を目指し、社会的貢献を果たす」という設立当初の理念・目的を継承・発展させた研究教育組織となることを期待している。

**【2023年度大学評価委員会の評価結果への対応状況】**

対面授業への完全移行に伴い学生間のコミュニケーションは活発化し、学生間のトラブルはあっても教員が適切に対処し大きな問題は生じていない。入試倍率は1.6以上を維持しているものの、組織変更に伴い2024年度で定年の教員2名の後任の採用ができない状況の中で入学者の減少は避けられなかったと考える。

2025年度の政策創造研究科としての募集停止に伴い、在学生に不利益が生じないよう、これまでと同様の授業プログラム、教育・研究指導の充実、横断ゼミ、シンポジウム、社会貢献などを継続し、地域創造インスティテュートへのスムーズな移行に向けて、万全を尽くしている。

「地域の課題に貢献できる教育・研究体制づくり」「学生のニーズに応じたプログラムの充実」「社会的貢献」という設立当初の理念・目的を地域創造インスティテュートに継承し、発展させることに力を尽くす。

**2 各基準の改善・向上**

**基準4 教育・学習**

**4.5 学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価していること。**

4.5③学習成果を測定するために設定した指標は、ディプロマ・ポリシーに明示した学生の学習成果を把握・評価できる指標や方法になっていますか。	S. さらに改善した又は新たに取り組んだ A. 概ね従来通りである又は特に問題ない B. 更なる改善が必要な点がある又は改善を困難とする要因がある。	A（概ね従来通りである又は特に問題ない）
上記項目について【SまたはB】と回答した場合は、その内容について記述してください。 Sの場合は、改善した取り組みや新たな取り組み、成果を記述してください。 Bの場合は、改善計画又は改善を困難とする要因について記述してください。		
4.5④学習成果を測定するために設定した指標に基づき、定期的に学生の学習成果を把握・評価していますか。	S. さらに改善した又は新たに取り組んだ A. 概ね従来通りである又は特に問題ない B. 更なる改善が必要な点がある又は改善を困難とする要因がある。	A（概ね従来通りである又は特に問題ない）
上記項目について【SまたはB】と回答した場合は、その内容について記述してください。 Sの場合は、改善した取り組みや新たな取り組み、成果を記述してください。 Bの場合は、改善計画又は改善を困難とする要因について記述してください。		

**4.6 教育課程及びその内容、教育方法について定期的に点検・評価し、改善・向上に向けて取り組んでいること。**

4.6①学習成果の把握・評価の結果に基づいて、教育課程及びその内容、方法、学生の主体的、効果的な学習のための諸措置に関する適切性の確認や見直しをしていますか。	S. さらに改善した又は新たに取り組んだ A. 概ね従来通りである又は特に問題ない B. 更なる改善が必要な点がある又は改善を困難とする要因がある。	A（概ね従来通りである又は特に問題ない）
上記項目について【SまたはB】と回答した場合は、その内容について記述してください。 Sの場合は、改善した取り組みや新たな取り組み、成果を記述してください。 Bの場合は、改善計画又は改善を困難とする要因について記述してください。		
4.6②教育課程及びその内容、方法、学生の主体的、効果的な学習のための諸措置に関する適切性の確認や見直しの基準、体制、方法、	S. さらに改善した又は新たに取り組んだ A. 概ね従来通りである又は特に問題ない B. 更なる改善が必要な点がある又は改善を	A（概ね従来通りである又は特に問題ない）

プロセス、周期等を明確にしていますか。	困難とする要因がある。	
上記項目について【SまたはB】と回答した場合は、その内容について記述してください。 Sの場合は、改善した取り組みや新たな取り組み、成果を記述してください。 Bの場合は、改善計画又は改善を困難とする要因について記述してください。		
4.6③教育課程及びその内容、方法、学生の主体的、効果的な学習のための諸措置について、外部の視点や学生の意見を取り入れるなど、適切性の確認や見直しの客観性を高めるための工夫をしていますか。	S. さらに改善した又は新たに取組んだ A. 概ね従来通りである又は特に問題ない B. 更なる改善が必要な点がある又は改善を困難とする要因がある。	A（概ね従来通りである又は特に問題ない）
上記項目について【SまたはB】と回答した場合は、その内容について記述してください。 Sの場合は、改善した取り組みや新たな取り組み、成果を記述してください。 Bの場合は、改善計画又は改善を困難とする要因について記述してください。		

## 基準5 学生の受け入れ

### 5.3 学生の受け入れに関わる状況を定期的に点検・評価し、改善・向上に向けて取り組んでいること。

5.3①学生の受け入れに関わる事項を定期的に点検・評価し、当該事項における現状や成果が上がっている取り組み及び課題を適切に把握していますか。	S. さらに改善した又は新たに取組んだ A. 概ね従来通りである又は特に問題ない B. 更なる改善が必要な点がある又は改善を困難とする要因がある。	B（更なる改善が必要な点がある又は改善を困難とする要因がある）
上記項目について【SまたはB】と回答した場合は、その内容について記述してください。 Sの場合は、改善した取り組みや新たな取り組み、成果を記述してください。 Bの場合は、改善計画又は改善を困難とする要因について記述してください。		
プログラムの工夫や各教員の積極的な広報により入試倍率は1.6以上を維持しているものの、組織変更に伴い2024年度で定年の教員2名の後任の採用ができない状況の中で入学者の減少は避けられなかったと考える。		
5.3②点検・評価の結果を活用して、学生の受け入れに関わる事項の改善・向上に取り組む、効果的な取り組みへとつなげていますか。	S. さらに改善した又は新たに取組んだ A. 概ね従来通りである又は特に問題ない B. 更なる改善が必要な点がある又は改善を困難とする要因がある。	A（概ね従来通りである又は特に問題ない）
上記項目について【SまたはB】と回答した場合は、その内容について記述してください。 Sの場合は、改善した取り組みや新たな取り組み、成果を記述してください。 Bの場合は、改善計画又は改善を困難とする要因について記述してください。		

## 基準6 教員・教員組織

### 6.3 教育研究活動等の改善・向上、活性化につながる取り組みを組織的かつ多面的に実施し、教員の資質向上につなげていること。

6.3①研究科内で教員の教育能力の向上、教育課程や授業方法の開発及び改善につなげる組織的な取り組みを行い、成果を得ていますか。	S. さらに改善した又は新たに取組んだ A. 概ね従来通りである又は特に問題ない B. 更なる改善が必要な点がある又は改善を困難とする要因がある。	A（概ね従来通りである又は特に問題ない）
上記項目について【SまたはB】と回答した場合は、その内容について記述してください。 Sの場合は、改善した取り組みや新たな取り組み、成果を記述してください。 Bの場合は、改善計画又は改善を困難とする要因について記述してください。		
6.3②研究科内で教員の研究活動や社会貢献等の諸活動の活性化や資質向上を図るために、組織的な取り組みを行い、成果を得ていますか。	S. さらに改善した又は新たに取組んだ A. 概ね従来通りである又は特に問題ない B. 更なる改善が必要な点がある又は改善を困難とする要因がある。	A（概ね従来通りである又は特に問題ない）
上記項目について【SまたはB】と回答した場合は、その内容について記述してください。 Sの場合は、改善した取り組みや新たな取り組み、成果を記述してください。		

Bの場合は、改善計画又は改善を困難とする要因について記述してください。

### III 2023 年度中期目標・年度目標達成状況報告書

評価基準	理念・目的	
中期目標	人生 100 年時代におけるグローバル化の進展のもとで、都市・地域・組織が抱える課題について、政策という観点から問題解決能力・合意形成能力・システムデザイン能力を培い、価値観の潮流を先取りした社会を創出できる高度専門人材及び研究者の育成を目的とする。 また、「社会人の学び直し」需要に積極的に応えながら、その実態を把握し、教育・研究の質確保を重視する。そして研究科の創立理念である地域貢献も果たしていく。	
年度目標	地域の衰退を前提に、地域の課題に貢献できる教育・研究体制づくりを進めることを念頭に、学生のニーズに応じたプログラムの充実を目指す。さらに研究科として社会的貢献を果たすべく努力していく。引き続き、定員確保を継続していく。	
達成指標	各プログラムについて、地域の現状把握、分析を行い、学生の意見・要望を重視しつつの充実感。留学生の比率を勘案しながら、定員を満たす。社会貢献活動の充実。	
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	S
	理由	年度目標及び達成指標に関しては概ね、学生のニーズにも答えられた。横断ゼミ、シンポジウム等アクティブラーニングも積極的に実施した。また定員もほぼ充足、教員、学生による社会貢献の試みも適宜、行われた。
	改善策	専任教員が 9 名という最小限の体制なので、これ以上、手を広げることは物理的に厳しい。今後のインスティテュートへの体制の変更を機に一層の努力を行いたい、当面は現状維持で年度目標及び達成指標に設定し、内容、質の充実を図る。
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	年度目標及び達成指標に関しては概ね達成したという執行部の判断に同意する。特に継続的に定員を充足できている点は大きく評価できる。横断ゼミ、シンポジウム、社会貢献の試みも継続的に実施されていることが評価できる。
改善のための提言	専任教員が 9 名という最小限の体制において、定員の確保に向けては、既に大きな成果をあげていると考える。その他、横断ゼミ、シンポジウム、社会貢献の試みなど、当研究科の優れた特徴を、より社会に発信していくことが望ましい。しかし体制変更に向けた過渡期にあるため、当面は現状維持で問題ない则认为する。	
評価基準	内部質保証	
中期目標	高度専門職業人及び研究者の育成を実現するためのカリキュラム、教員、学生の支援、研究科としての社会貢献、学習成果などについて、独立した質保証を適切な評価指標に基づき専門的に実施する体制の整備。	
年度目標	研究科としての社会貢献、学習成果などに関する適切な評価指標を、時代環境の変化にあわせアップデートする。修士論文も質を向上させていく。教員・学生間、学生間のコミュニケーションを図り、健全な教育の場を作っていく。	
達成指標	評価指標のアップデート及び修士論文の質の向上。研究科内のコミュニケーションの充実を図ることによっての安心感の向上。	
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	A
	理由	年度目標及び達成指標に関しては学際性の強い研究科なので、群ごとの評価指標を設定して、修士論文の評価に適用している。それにより修士論文の質は明確に向上している。
	改善策	群ごとの評価基準の可視化はまだ行われていないので、この点に関しては可能な範囲で着手すべきだと考えている。学生に明確に提示ができるように心掛けたい。
	質保証委員会による点検・評価	

	所見	執行部所見どおり、学際性の強い研究科という特徴をうまく捉え、群ごとの評価指標による修士論文の評価、質の向上への取り組みが行われている。修士論文の質は所見通り、明確に向上している。
	改善のための提言	修士論文の質評価については中間発表で群横断的に指導を行っていること、評価の数値基準が明確化されていること、最終試験結果については学生一人一人の可否を教授会で議論・審査していることから、既に一定の可視化は図られている。今後、教授会での議論を深めていきたい。
	評価基準	教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】
	中期目標	高度専門職業人の育成等、社会的ニーズの変化に対応した群・プログラムの見直しを行う。
	年度目標	アクティブラーニングのさらなる充実。横断プロジェクトの充実を図る。 教員、学生双方の研究成果のアウトプットを積極的に行っていく。
	達成指標	各プログラム・科目の履修者数と受講満足度、学生からの意見・要望の評価。 研究成果のアウトプット。
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	A
	理由	横断ゼミ、シンポジウムなどを通じてアクティブラーニングは適宜、実施された。学生の期待には答えられたと考えている。各プログラム・科目の履修者数も幾分、偏りが減った。学生とはゼミ長会のメンバーと意見交換を行った。
	改善策	アクティブラーニングに対してはこれでよいということはないので、学生のニーズを適確に把握してさらに充実させていきたい。
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	執行部所見どおりであると評価できる。執行部とゼミ長会は活発に意見交換を行っており、それによって学生に必要なイベント、横断ゼミ、シンポジウムなどを着実に実施できている。
	改善のための提言	執行部所見どおりであり、アクティブラーニングの実施についてはさらなる改善が可能であろう。ただ、すでに当研究科としては日本においても価値ある実績を積んでいるので、それを整理して研究科外部に発信することも可能であろう。
	評価基準	教育課程・学習成果【教育方法に関すること】
	中期目標	コースワークにおける双方向性の確保。各ゼミの特徴を生かしつつ、ゼミ間交流を促進する。
	年度目標	高度専門職業人、研究者向けのみならず、学部卒学生にも、時代に適合したプログラム及び科目の充実を進める。
	達成指標	アクティブラーニングへの教員個々の取り組みをはかる。横断プロジェクトの内容の多様化の促進。
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	A
	理由	学部卒業生、社会人、留学生が混在しているので、それぞれのニーズの把握に務めた。それを基本にして教員がアクティブラーニングへの取り組みを行ってきた。横断ゼミは前年に比べて国内、積極的に地域への巡検を行った。
	改善策	学部卒業生、社会人、留学生が混在しているので、それぞれのニーズの把握を前提に、カリキュラムの微調整を行っていく。
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	執行部所見どおり、学部卒業生、社会人、留学生、それぞれのニーズを勘案し、それに応じたアクティブラーニングへの取り組みができています。コロナ禍が収束したという状況でもあり、横断ゼミは前年に比べて積極的に国内の各地域で活動できた。
	改善のための提言	執行部所見どおり、学部卒業生、社会人、留学生が混在しているので、それぞれのニーズの把握に基づきアクティブラーニングとカリキュラムを発展させていくことが望ましい。

評価基準	教育課程・学習成果【学習成果に関すること】	
中期目標	各プログラムの専門知識の高度化とリサーチワークの基礎となる必修科目の充実をはかる。	
年度目標	必修科目である修士の「政策分析の基礎」「政策ワークショップ」と博士の「研究法」を円滑に実施し、分析手法習得の充実をはかっていく。	
達成指標	「政策分析の基礎」「政策ワークショップ」「研究法」の実施状況を評価しながら、分析手法取得の充実を評価。	
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	A
	理由	必修科目は円滑に運営されているが、それを契機にした学生間のトラブルはほぼ解消された。今、一層の学生との信頼関係の構築が望まれる。
	改善策	学生間、教員・学生間というつながりに対して、さらに信頼度を高める方策を模索していく必要があるだろう。
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	執行部所見どおり、「政策分析の基礎」「政策ワークショップ」と博士「研究法」という必修科目は円滑に運営され、学生間のトラブルも解消された。学生間のトラブルの解消は、その解消に向けた必修科目内のアクティブラーニングの工夫にあるので評価できる。
改善のための提言	執行部所見のとおりであり、学生間、教員・学生間の信頼関係の構築は重要で、さらなる科目内の工夫と、科目外の工夫を行っていく必要がある。	
評価基準	学生の受け入れ	
中期目標	高度専門職業人の一定割合確保する。多様な人材を積極的に活用できる社会を目指せるようダイバーシティ効果を意識した学生受け入れを行う。	
年度目標	専門実践教育訓練給付金制度を活用した社会人学生の確保、外部への働きかけによる学部卒学生の確保を行いつつし、教員による説明会とゼミ見学会を強化する。	
達成指標	教員による説明会とゼミ見学会の実施状況と効果を検証及びそれ以外の学生集めをいかに実施していくかも検証。	
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	S
	理由	専門実践教育訓練給付金は社会人学生の確保に効果を上げており、教員による進学相談、ゼミ見学会も以前に比べれば具体的な効果を上げている。
	改善策	2023年度が研究科最後の入試となり、受験生数は前年より増えた。教員による受験生ケアを心がけていきたい。
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	執行部所見どおり、専門実践教育訓練給付金、進学相談、ゼミ見学会の効果が十分に発揮できていると評価できる。
改善のための提言	執行部所見どおり、受験生数は前年より増えた。この点は順調であり、ディレクター等による事前面談が機能しているので、これを維持していく必要がある。	
評価基準	教員・教員組織	
中期目標	現在の研究科の課題に対応できる委員会の設置及び検討・見直し。プログラムの見直しと教員の若返り化・女性教員の比率を考慮した人材の確保（充足）。	
年度目標	各委員会の一層の活動強化を図る。	
達成指標	各委員会の活動の評価。	
年度末	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	A
	理由	各委員会も例年通り、積極的に活動した。教員、事務方、積極的に取り組んだ。
	改善策	インスティテュートでも運営委員会内でのさらなる議論、情報の共有化を図っていきたい。

報告	質保証委員会による点検・評価	
	所見	執行部所見どおり、各種委員会活動について、教員、事務方とも連携していて、積極的に取り組んでいる。
	改善のための提言	現研究科の体制では、現状十分に機能している。執行部所見どおり、インスティテュートで各研究科が連携したコミュニケーションを図っていくことが重要である。
評価基準		学生支援
中期目標		相談体制の充実。研究科同窓会を通じたネットワークづくり。
年度目標		留学生を含めた、ディレクターによる受験生との相談、および執行部とゼミ長会による相談体制の充実。同窓会の卒業生との連絡体制の強化。
達成指標		ディレクター個別相談、執行部とゼミ長会による相談会の実施、同窓会シンポジウムにおける同窓会の卒業生への連絡体制の強化を評価。
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	A
	理由	留学生を含めた、ディレクターによる受験生との相談、および執行部とゼミ長会による相談体制は充実していた。同窓会の卒業生との連絡体制の強化は図られた。
	改善策	インスティテュート移行後も同窓会は維持していきたい。
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	執行部所見どおり、ディレクターによる受験生との相談、執行部とゼミ長会の相談体制、同窓会は十分に機能しており、当研究科の大きな強みである。
	改善のための提言	執行部所見どおりであり、インスティテュート移行後もディレクターによる受験生との相談、執行部とゼミ長会の相談体制、同窓会の機能をうまく継承していく必要がある。
評価基準		社会連携・社会貢献
中期目標		政策創造に関して、広く社会に情報を発信するとともに地域まちづくりに貢献する。
年度目標		2回程度のシンポジウム開催。横断プロジェクトによる地域貢献の充実。各教員を通じた社会貢献の実施。また教員個々の活動を共有する場も設けていく。
達成指標		横断プロジェクトなどによる地域貢献の充実。研究科主催によるシンポジウムの実施。引き続き、横断プロジェクトと研究科主催シンポジウムの連携も図る。オンラインの研究科シンポジウムやセミナーも検討する。各教員を通じた社会貢献の実施。
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	A
	理由	横断プロジェクトなどによる地域貢献の充実。研究科主催によるシンポジウムの実施は積極的に実施された。オンラインでのゲスト講師の授業、プログラム演習の情報は教員間で共有され、学生にも伝達されている。
	改善策	各教員の社会貢献の情報共有に関してはインスティテュート移行後も、FDを活用して行っていきたい。
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	執行部所見どおりであり、横断プロジェクトなどによる地域貢献、研究科シンポジウム、ゲスト講師、プログラム演習は充実しており、情報共有が図られている。
改善のための提言	執行部所見どおり、インスティテュート移行後も、研究科を超えた各教員の社会貢献の情報共有は重要であり、FDの中核の取り組みになると考える。	
<p><b>【重点目標】</b> より学生にとって魅力的な研究科を目指すべく、プログラム及び科目を改廃して、適切に実施すること、および専任教員の分担で、分析手法習得機会の一層の強化を図るためのプログラムの充実を継続していく。さらに、社会貢献として横断プロジェクトの活用及び教員個々の活動の充実、各委員会の活動充実、学生確保のための改編した教員相談会&amp;ゼミ見学会を充実させる。</p> <p><b>【目標を達成するための施策等】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・横断プロジェクトと研究科主催シンポジウムの連携による社会貢献、地域貢献</li> <li>・研究科シンポジウムやセミナーの実施のあり方も検討する。</li> <li>・各委員会の活動強化</li> </ul>		

・受験相談会&ゼミ見学会の充実 も図っていく。
<p><b>【年度目標達成状況総括】</b></p> <p>研究科設置から15年経ち、一定の対外的訴求力を得て、受験生確保には成功しているといえる。また学生の学力向上には目を見張るものがあり、教育的な側面からも研究科及び個々の教員の努力が結実してきたといえよう。年度目標は概ね達成したといっても過言ではない。学生間交流も横断ゼミ等を通じて活発に行い、研究科としての一体感も醸成できたことを付け加える。</p>

## IV 2024 年度中期目標・年度目標

評価基準	理念・目的
中期目標	人生100年時代におけるグローバル化の進展のもとで、都市・地域・組織が抱える課題について、政策という観点から問題解決能力・合意形成能力・システムデザイン能力を培い、価値観の潮流を先取りした社会を創出できる高度専門人材及び研究者の育成を目的とする。 また、「社会人の学び直し」需要に積極的に応えながら、その実態を把握し、教育・研究の質確保を重視する。そして研究科の創立理念である地域貢献も果たしていく。
年度目標	研究科としての募集停止という厳しい状況の中でも、引き続き、地域の課題に貢献できる教育・研究体制づくりを進める。オンライン授業を適切に活用しつつも、地域課題解決に向けたフィールドワークを充実させ、研究科として社会貢献を果たすべく努力していく。また「社会人の学び直し」に対応したプログラムの充実を図り、地域創造インスティテュートへのスムーズな継承を目指す。
達成指標	学生の意見・要望を重視しつつ学生の不利益にならない教育・研究体制の充実。よりフィールドワークを重視した社会貢献活動の充実。
評価基準	内部質保証
中期目標	高度専門職業人及び研究者の育成を実現するためのカリキュラム、教員、学生の支援、研究科としての社会貢献、学習成果などについて、独立した質保証を適切な評価指標に基づき専門的に実施する体制の整備。
年度目標	研究科としての社会貢献、学習成果などに関する適切な評価指標を継続していく。引き続き修士論文の質を向上させていく。教員・学生間、学生同士のコミュニケーションを図り、健全な教育の場を作っていく。
達成指標	評価指標のアップデート及び修士論文の質の向上。研究科内のコミュニケーションの充実を図ることによっての安心感の向上。
評価基準	教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】
中期目標	高度専門職業人の育成等、社会的ニーズの変化に対応した群・プログラムの見直しを行う。
年度目標	フィールドワーク、横断プロジェクトの充実を図る。教員、学生双方の研究成果のアウトプットを積極的に行っていく。2025年度より新設される地域創造インスティテュートとの合同開催を見据え、スムーズな移行を図る。
達成指標	各プログラム・科目の履修者数と受講満足度、学生からの意見・要望の評価。研究成果のアウトプット。
評価基準	教育課程・学習成果【教育方法に関すること】
中期目標	コースワークにおける双方向性の確保。各ゼミの特徴を生かしつつ、ゼミ間交流を促進する。
年度目標	アクティブラーニングのさらなる充実。高度専門職業人、研究者向けのみならず、学部卒学生にも、時代に適合したプログラム及び科目の充実を進める。
達成指標	アクティブラーニングへの教員個々の取り組みをはかる。横断プロジェクトの内容の多様化の促進。
評価基準	教育課程・学習成果【学習成果に関すること】
中期目標	各プログラムの専門知識の高度化とリサーチワークの基礎となる必修科目の充実をはかる。

年度目標	必修科目である修士の「政策分析の基礎」「政策ワークショップ」と博士の「研究法」を円滑に実施し、分析手法習得の充実をはかっていく。また、研究科独自の優秀論文等の表彰及び公開を通じて、学習成果を積極的に示していく。
達成指標	「政策分析の基礎」「政策ワークショップ」「研究法」の実施状況を評価し、修士論文における分析手法の充実、高度化を評価。
評価基準	学生の受け入れ
中期目標	高度専門職業人の一定割合確保する。多様な人材を積極的に活用できる社会を目指せるようダイバーシティ効果を意識した学生受け入れを行う。
年度目標	研究科としては2025年度の募集はないが、地域創造インスティテュートとして学生の受け入れを図る。4名の教員による個別相談会とゼミ見学会を継続し、社会人学生の確保、外部への働きかけによる学部卒業生の確保を行う。
達成指標	研究科としての募集はないため、地域創造インスティテュートとして、個別相談会、ゼミ見学会を継続し、その効果を検証する。
評価基準	教員・教員組織
中期目標	現在の研究科の課題に対応できる委員会の設置及び検討・見直し。プログラムの見直しと教員の若返り化・女性教員の比率を考慮した人材の確保（充足）。
年度目標	各委員会の一層の活動強化を図る。研究科として2024年度に定年を迎える2名の教員の後任は確保できないが、地域創造インスティテュートへのスムーズな移行を図る。
達成指標	各委員会の活動の評価。
評価基準	学生支援
中期目標	相談体制の充実。研究科同窓会を通じたネットワークづくり。
年度目標	募集停止による学生の不安を払拭するよう、執行部を中心に相談体制を強化する。執行部とゼミ長会による相談体制の充実。同窓会との連絡体制を強化し、地域創造インスティテュートへのスムーズな移行を図る。
達成指標	執行部とゼミ長会による相談会の実施、同窓会との連絡体制の強化を評価。
評価基準	社会連携・社会貢献
中期目標	政策創造に関して、広く社会に情報を発信するとともに地域まちづくりに貢献する。
年度目標	シンポジウム開催（地域創造インスティテュートと連携）。横断プロジェクトによる地域貢献の充実。各教員を通じた社会貢献の実施。また教員個々の活動を共有する場も設けていく。
達成指標	横断プロジェクトと研究科シンポジウムの実施。各教員を通じた社会貢献の実施。
<p><b>【重点目標】</b>  教育内容に関しては、フィールドワーク、横断プロジェクトの充実を図るとともに、2025年度より新設される地域創造インスティテュートへのスムーズな移行を図る。学生支援に関し募集停止による学生の不安を払拭するよう、執行部を中心に相談体制を強化する。</p> <p><b>【目標を達成するための施策等】</b>  フィールドワーク、横断プロジェクトの充実を図り、教員、学生双方の研究成果のアウトプットを積極的に行っていく。執行部による相談体制、ゼミ長会との相談会の実施、同窓会との連絡体制を強化する。</p>	